

W  
OMEN'S



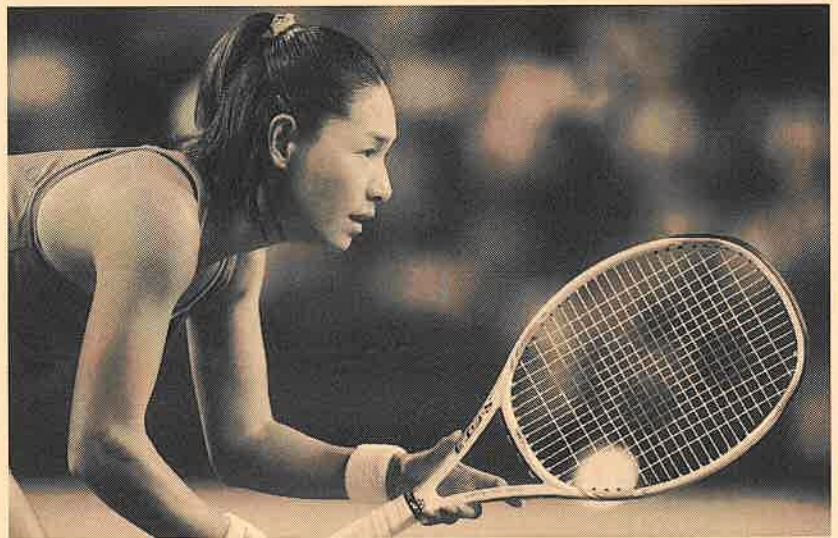
NEWS

2009 NOV.

VOL. 48

S  
PORTS

F  
OUNDATION



復帰2シーズン目も大活躍のクルム伊達公子選手（フォート・キシモト）

J  
APAN

Message	今どきの学生の考え方	三ッ谷洋子	2
座談会	「女子ボクシングがロンドン五輪で正式種目に 普及と強化の現状と課題を語る」	豊嶋建広さん、泉重樹さん、青木宝子さん、井下佳織さん	3
Women's Sports	ジョギングに目覚めた女性たち	下条由紀子	6
Column	アメリカの風「女性スポーツ便り」第3回	羽石架苗	7
TIME TRAVEL	「スポーツ」「社会」		8
事務局便り			9

### 今どきの学生の考え方

4月から半年間、大学で「女性とスポーツ」の講義を担当しました。1学年 160 人という小さな学部です。30 人くらいは受講してくれるのではないかと期待していたのですが、最初のオリエンテーションに出席したのは9人。女子が4人ほどいたのですが、最終的には男子2人という、まるで家庭教師のような授業となりました。

S君は「女の子と友達になれるかな、と思って」と正直な動機。H君は「予備校で女性スポーツの問題が出て、手も足も出なかったんです。こんなことは初めてだったので、悔しくて勉強してみることにしました」と、真面目です。女性スポーツの歴史や現状等について、様々な角度から考えさせながらの講義をしました。

ある時、H君は「手も足も出なかった問題」と自分の解答を書いて「採点してください」と、持って来ました。問題として使われている文章はかなりあいまいな表現があり、私にはよく理解できないものでした。「これが正解」というような解答を示すことができず、文章のまとめ方を指導しただけでした。

これとは別に、「スポーツ社会学」の授業を担当しているK先生から、「一度、女性スポーツの話を学生たちにしてください」と、講義を頼まれました。必修授業なので100人以上の受講者がいます。1時限なので最初はボンヤリしていた学生もいましたが、後半に入ると皆、真剣に耳を傾けてくれました。

ヨーロッパや日本における女性スポーツの変遷を映像で見せながら、なぜ私がWSFジャパンの設立を思い立ったかについても、経験談として紹介しました。

そして最後に、日本の女性スポーツを取り巻く問題を象徴的に表しているデータを紹介しました。オリンピックの出場選手、メダル獲得数、本部役員数における、女性の比率です。

五輪の選手数、メダル数、役員数の女性比率

大会	選手数	メダル数	役員数
シドニー	41%	72%	10%
アテネ	55%	46%	9%
北京	50%	48%	10%

実際にはこれを円グラフで示して説明しました。選手数、メダル数とも時には男性を上回っているにも拘らず、役員数は10%、9%、10%と低いまま。実数でいえば、「10人中1人」とか「11人中1人」なのです。つまり「たった1人」が続いています。

ちなみにシドニーの前のアトランタでは、女性役員は「ゼロ」でした。どう見ても、女子選手の活躍に比べて、それを支える組織の女性の比率が圧倒的に見劣りします。

一般の人を対象にした講演会でも、この現実には皆、少なからず衝撃を受けるようです。初めて今の女性が置かれたスポーツ界での現状を知り、驚くのです。

ある学生が、こんな感想を記していました。「女性が多くの差別と戦ってきた歴史を知り、ショックを受けた。また現在でも、多くの差別があることを知り、男としてとても恥ずかしくなった。このようなことを解決していくことこそ、真の意味で日本のスポーツ界を発展させていくことだと思う」

### 座談会

## 女子ボクシングがロンドン五輪で正式種目に普及と強化の現状と課題を語る

多くのスポーツがオリンピックを最高の舞台として“オリンピック入り”を目指す中、2016年のロンドン五輪で女子ボクシングが正式種目となったことは、あまり話題になっていません。特に日本では、ボクシングは男性のものというイメージがあまりに強いため、メディアでほとんど取り上げられないのが大きな理由の一つといえるでしょう。

そこで、日本の現状や、オリンピックでのルールなどについて、大学で女子ボクシングの普及に関わっている4人の先生方にお話をうかがいました。

(11月10日、千葉県柏市・麗澤大学) 聞き手：永田千恵



「金メダルも可能ですよ」と女子ボクシングをアピール

#### 豊嶋建広さん (写真:後左)

麗澤大学経済学部教授。27年前から大学の授業の一環として男女一緒にできる、安全なボクシングのプログラムを作り指導している。

#### 泉 重樹さん (同:前右)

法政大学スポーツ健康学部専任講師。ボクシング部コーチ。96年全日本社会人選手権ミドル級チャンピオン。

#### 青木宝子さん (同:前左)

国際武道大学ボクシング部コーチ。大学時代に「ボクササイズ」に興味がありボクシング部に入部。技を覚えるうちにボクシングにはまる。

#### 井下佳織さん (同:後右)

国際武道大学武道学科助教。空手道部監督。中央大でボクシング指導の経験を持つ。

#### ●ロンドン五輪では3種目実施

— まずはプロとアマチュアの違い、オリンピックでのルールなど、そのあたりから教えていただけますか。

泉 オリンピックで認められたのは、女子はフライ級(48~51kg)、ライト級(56~60kg)、ミドル級(69~75kg)の3階級しかありません。プロとアマチュアの違いといいますと、具体的にはラウンドの数ですね。

女子の場合、アマチュアは2分3ラウンドです。プロも1ラウンド2分はアマチュアと変わらないのですが、日本タイトルマッチは8回戦とラウンド数が多い。

もちろん、ヘッドギアとノーファウルカップ(トランクスの下につける防具)は男女ともに義

務づけられています。

— 女子の場合、胸へのパンチはどうなんでしょう？

泉 ボクシングという競技の特性上、打つ点はベルトラインよりも上、前面というルールで男子と変わりありません。

妊娠検査を必ずする点が、体に対する最低限の配慮ですね。もともと男性のスポーツで女性人口は少なく、女性の心と体の問題に配慮したシステムができていないのが現状です。

— 安全性という面ではどうでしょう。

泉 ウィキペディアレベルで恐縮ですが、傷害調査などは他国でやっているようで、男よりもパンチの衝撃による傷害は少なく、重傷な頭部外傷の報告は1件もありませんでした。もっともこれはそれくらい安全だから、みんなやってよねっていう論調ですけど。(笑)

●練習相手がいない

— 日本国内では女子の競技人口はどのくらいですか？

青木 人数はわかりませんが、非常に少ないですね。アマチュアライセンスをとらないと試合に出られないんですが、大会に出たとしても同じ階級に選手がいらないということもあるくらいです。



実際、私も登録して試合に出ようと思ったことがあるんですが、当日、会場に行ったら同じ階級の選手がいなくて、出られなかったことがありました。

泉 練習でも相手がなくて男の人とスパーリングをせざるをえないですよ。

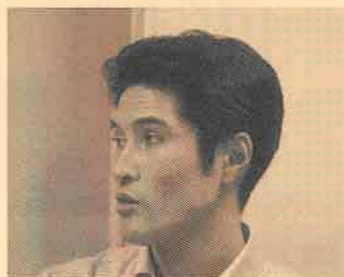
青木 そうですね。練習は男子部員に相手を頼むしかありません。そうすると、相手はどうしてもやりづらいようで、手加減するといったこという

ことになってしまいがちです。

泉 クリンチとか、顔へのパンチとか、男のほうに気にするかもしれませんね。

井下 でも、男女一緒に練習は他競技では珍しいことではないですよ。空手は直接、打撃ではないですけど、男女一緒に練習がスタンダードですし、柔道も中学生くらいまでは男女一緒にやっているところがたくさんあります。

泉 僕の後輩がボクシングジムをやっていますが、そこではキッズボクシングから始めて男女一緒にやっているという子



たちが増えてきています。今後はごく当たり前になら男女一緒に練習するという時代がくるかもしれませんね。

— では、普及という点ではどうでしょう？

泉 実はアマチュアボクシング自体をプロ化しようという話があるんですよ。「ワールドシリーズボクシング」という名前もついていて、すでにホームページも出ています。3分3ラウンドという形態をそのままプロ化させ、観客を楽しませる、見応えのあるものにしていこうという試みです。

●望まれる日本の組織的取組

— アマチュアとプロの境界線がどんどんなくなってきていますね。

泉 まさに。アマチュアとプロという概念ではなくて、国際ボクシング協会「AIBA」の「A」は「アマチュアのA」なんですけど、「我々のボクシングはアマチュアではない」とホームページでもいっているくらいです。

安全で、なおかつ観客に見応えがあるもの、選手はお金も稼げて、オリンピックにもいくことができ、名声も得られる。AIBAはボクシングをそう作り替えていきたいと考えているようです。

豊嶋 柔道が刺激になったんじゃないかと思いますね。人気が無くなったらオリンピックから外されちゃうから。でも、ヨーロッパはボクシングにもともと否定的ですよ。反対するんじゃないですか？



泉 女子ボクシングは実はヨーロッパが始まりで、現在、アイルランドに強いチャンピオンがいます。ロンドンでメダルを取れる見込みがあるということで、強化を進めているんです。

— しかしながら、そういう世界的な流れに日本はまだ追いついていないと。

泉 そうです。ただ、柔道なら小学校低学年からやらなければ世界にいけません、ボクシングだったら中学や高校から始めても世界大会やオリンピックにいける可能性があります。

●遅いスタートでも狙える金メダル

泉 スタートが遅くても何とかなる競技なんです。そういう意味では女子は面白いと思います。そんなに相手がいないですから、強化のしがいはあると思うんですよ。

井下 でも、国際的には競技レベルが高いのではないですか？



泉 女子の体というところからみれば、基本的に競技力の差、人種による体の差、筋肉の質も含めて、男子に比べて差がありません。ということは、試合経験を積ませる環境さえ整えば、日本選手がオリンピックで金メダルを取ることも可能です。

井下 健康志向でボクシングを始める女性は確実に増えています。

泉 女子ボクシングの未来ということであると、亀田兄弟じゃないですけど、スター性のある強い選手が出てくるのが普及の第一歩ですね。もう一つは、日本アマチュアボクシング連盟を中心とした組織をきちっとさせること。

この2つに加えて、僕は個人的に「ワールドシリーズボクシング」に期待しているんですよ。アマチュアボクシングのプロ化がどれだけ日本に浸透するか。これが日本のアマチュアボクシングを浮上させる起爆剤になりうると思うんですよ。それから大学に女子部ができれば広がります。プロのジムにも女性は確実に増えている。でも、試合ができる環境がないことが一番大きな問題なので、試合ができる環境作りをすることがアマチュアボクシング界の仕事であり、それが女子ボクシングを普及する一番の近道だと思います。



世界女子バンタム級8位の箕輪綾子:日体大4年生(フォート・キシモト)

— そして、今回のロンドンオリンピック。

泉 女子ボクシングがどういう形でマスコミにとりあげられるか。日本はそういうことからしか変われないかも知れませんね。後は熱意のある指導者が出てくることでしょうか。僕がやりますっていうことじゃないですけどね。(笑)

《対談を終えて》

女性の格闘技は柔道、レスリングとかなり浸透してきましたが、ボクシングはなにしろ顔を打ち合うことでもあるので、まだまだ厳しい面ありそうです。でもそれだけに、現在の環境の中でボクシングに打ち込んでいる女性たちは精神的にタフなはず。そんな女性たちのがんばりが流れを変える一番の原動力になるかもしれないと思いました。

## Women's Sports

### ジョギングに目覚めた女性たち

ちょっと大げさではあるが、最近、新聞やテレビ、雑誌などの媒体でジョギングの記事を毎日のように目にするのは、職業柄ばかりでもない気がする。それも女性に関することが多い。ホノルルマラソンで基盤ができ(?)東京マラソンの第1回(2006)で火がついた、さらには皇居の周りがジョギングのメッカとして注目されるようになり、「火に油を注ぐ」結果となった、というのが今、一般的にいわれている流れである。もちろん増えているのは女性たちばかりではなく、男性も同じ。いわゆる人気大会はどこも締切日前に定員に達するというのが昨今の状況である。



ゴールした笑顔が素敵(うさみたかみつ)

この現象が首都圏中心なのは間違いないところだが、10月に行った和歌山市でも同じような光景を見た。日曜日、和歌浦湾にあるマリナーシティの大会会場は人でごった返っていた。1万人の定員は締切日前に満員御礼だったという。メイン種目はハーフマラソン(あとは10km、5km、3km、2km)。この大会はコース中8カ所にジャズライブでの応援箇所を設けているのが特徴。私自身ハーフに出場、最後尾からスタートしたら、周りは女の子たちで一杯。それが決まったように、シャツ、タイツの上にランスカ(ランニング用スカート)を重ねている。そう、しょっちゅう皇居で見ているスタイルだ。既に関西にも波及していたのか、とちょっと感慨深かった。

私が皇居で走り始めたのは1974年。当時、女

性ランナーというのはまずいなかった。1979年に東京国際女子マラソンが開催され、テレビで放映されるたことも影響したのか、街に走る人の姿がグンと増えた記憶がある。でもそのほとんどは男性。そしてその状況はそのままずっと続き、市民ランナーの女性比率は15パーセント前後で推移していた。

東京マラソンが起爆剤だったことは確かだが、その前から女性は目立つようにはなっていた。モデルの長谷川理恵さんの影響だとか、(シドニー五輪で金メダルの)Qちゃん効果だとかいわれ、もちろんそれを否定はしないが、私の考察では経済的にも自立した独身女性の心身のバランス維持の「アンテナ」にジョギングが引っかかったというもの。

走ることは、まず外見を気にしていたら始められない。汗はかくし、化粧は落ちる。大体、走る格好(カラダ)は不格好。心拍数が上がって(身体的に)苦しいし、単純動作の繰り返しで気持ち的には飽きる。続けていき習慣化するまでに、すなわち、それ自体を楽しみと思い、心身への効果を実感するまでに時間がかかる「スポーツ」なのである。でも一旦実感すると「はまる」人は多い。速いとか人に勝つとかはなくても、自分で自分をほめることができるからでもある。

でも最近の状況はやはりちょっと異常と思う。平日夕方の皇居は走る人で溢れている。銭湯ばかりか、ロッカーとシャワーを備えた専用施設も何カ所もできている。

「最近、走っているの」「わあ、かっこいいな、私もやろうかな」とかなんとか。でもアメリカはもう何十年も前からジョギング人口は女性優位だった(フルマラソン完走者数は2008年で40%)から、日本のこの現象もホンモノなのかも。だと嬉しいのですが。

【しもじょう・ゆきこ】ランナーズ編集長。

下条由紀子

column

アメリカの風「女性スポーツ便り」第3回

### 南アフリカで日本をアピール

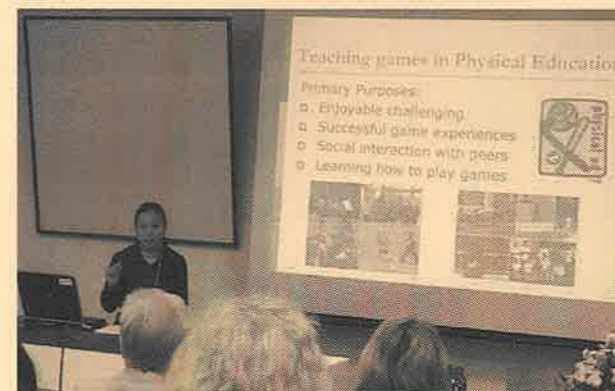
羽石 架苗

#### IAPESGW 世界会議に参加して

この夏、7月16日から19日にかけて、南アフリカ共和国のステレンボッシュで国際女子体育連盟(International Association of Physical Education and Sport for Girls and Women: IAPESGW)の世界会議が行われました。1977年から4年に1度、開催され、今回は60周年記念行事として盛大に行われました。

会議のテーマは、「UBUNTU 魂に則った体育とスポーツの実施と研究」と設定され、世界各国から女性と少女のための体育・スポーツの研究やプロジェクトが発表されました。(UBUNTUとは、アフリカで古くから伝わる格言で、温かさや敬意を持って人と接するという IAPESGW の根本的理念“人間は1人では生きられない”という意味)

私は、昨春に行った女子大学生を対象としたボールゲーム指導法「ゲームアプローチ」(Games Approach)の研究発表を行いました。この指導法は比較的新しく、体育界だけでなくスポーツ界でも世界的に注目を浴びているものです。従来のような技術面を重視する指導法とは異なり、ゲーム全体の戦術や、学生(選手)の判断能力向上に重きを置いています。



「ゲームアプローチ」の発表をする筆者

また、形にこだわるプレースタイルより、スポーツをすること自体を楽しむことを重視していることから、アスリートだけでなく一般のスポー

ツ愛好家、少年少女の指導にも効果的とされています。世界には、文化や歴史の関係でスポーツに参加することが難しい女性や少女が多くいますが、こういった会議や研究が彼女たちをスポーツの世界へと導く助けになればと思います。

この会議には、世界各国から体育・スポーツの関係者が多数参加していました。遠く南アフリカの地で、女性スポーツに関わる多くの日本の方々にもお会いできたことは、感慨深いものがありました。その中には、長い間、日本だけでなく世界で女性スポーツ発展のために積極的に活動されているお茶ノ水女子大学の松本千代栄先生もいらっしやっていて、この世界会議で“日本の女性スポーツ”を十分にアピールできたのではないかと考えています。

#### シカゴオリンピック招致成らず...残念!

アメリカでは、人気大統領オバマ氏の絶大なサポートのもと、2016年夏季オリンピックのシカゴ招致が期待されていましたが、残念ながら落選してしまいました。その後、アメリカ国内では健康保険問題やイラク、アフガニスタン戦争問題が国民の期待通りに進んでいないということで、オバマ政権は苦戦中?

東京も残念ながら招致できませんでしたが、個人的には、南米ブラジルの人気都市リオデジャネイロでのオリンピック開催も、素晴らしい大会になるものと期待しています。

【はねいし・かなえ】日本女子サッカーリーグ(ジェフ市原)でプレーした後、米国にサッカー留学し全米優勝を果たす。現在、セミプロチーム「ニューヨークマジック」キャプテン。マントホリヨーク大学サッカーチーム監督の傍ら授業も担当。コーチ学・体育教育学専攻(Sport Pedagogy) 博士号取得を目指している。WSF ジャパン会員。1978年生まれ。